

女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (5)

武 田 圭 太

問 題

ふるさとが人の感情や考えに作用し、態度や行動を規定することは少し明らかにされた(武田, 2008)。しかし、ふるさとを構成概念とし、それを操作化して測定した結果にもとづく実証研究は皆無である。質問紙法による調査研究を行う場合、理論上の抽象である構成概念を操作的に定義し、測定可能な項目を用意することになる。ふるさとの社会心理を検討するには、ふるさと心象を測る心理尺度が必要である。ふるさとにまつわる人の心理を測定する既存の尺度はないので、それを開発することから始めなければならない。

心理尺度の開発は、構成概念に関係する複数の項目を探索的に因子分析し、暫定的な予備尺度の信頼性と妥当性を高めるように改良していくのが一般的な進め方である(江口・戸梶, 2009; 石盛・岡本・加藤, 2013; 桜井, 1993)。そこで、本稿では、これまでに集めたふるさと心象にかかわる資料を使って、ふるさとの心象を測るための尺度を試作する。

方 法

調査対象 原調査は、愛知県内の私立T大学経営情報学部1～2年生、私立A大学文学部2～4年生、T市青年団員、G市保健センター利用者、G市勤労青少年ホーム利用者、G市民

会館職員およびその家族、T市勤労青少年ホーム利用者を対象に行った。

調査方法 原調査は、構造化された質問紙法によって、私立T大学経営情報学部1～2年生31人、私立A大学文学部2～4年生69人、T市青年団員114人、G市保健センター利用者100人、G市勤労青少年ホーム利用者81人、G市民会館職員およびその家族35人、T市勤労青少年ホーム利用者113人、合計543人に調査票を配布した。そのうち、回答の一部が無記入など不備だった調査票や、愛知県以外の出身者の回答83票を除いて、460の有効票を回収した(配布票に対する有効回収率84.71%)。

調査票は、私立T大学経営情報学部1～2年生、私立A大学文学部2～4年生には、授業中に配布し回答してもらい回収した。T市青年団員には、豊川市教育委員会生涯学習課の職員と豊川市青年団員を介して調査票が配布され回収された。G市保健センター利用者、G市勤労青少年ホーム利用者、G市民会館職員およびその家族については、それぞれの職員を介して調査票を配布し回収してもらった。G市保健センターでは乳幼児の育児講習等を受講する母親、また、G市勤労青少年ホームでは親睦を深めながら余暇活動をしているクラブやサークルの会員が調査対象だった。さらに、蒲郡市民会館の職員とその家族からも回答を得た。T市勤労青少年ホーム利用者に

は、豊橋市職員を介して講座の前後に調査票が配布され回収された。

調査時期 原調査は愛知県内の私立T大学経営情報学部1～2年生と私立A大学文学部2～4年生には2001（平成13）年11月、T市青年団員には2002（平成14）年6～9月、G市保健センター利用者とG市勤労青少年ホーム利用者とG市民会館職員およびその家族とT市勤労青少年ホーム利用者には2003（平成15）年10～11月に実施した。

分析手続 検討する変数は、①ふるさと心象、②ふるさとの印象、③ふるさとの有無、④ふるさとでの定住願望である。

ふるさと心象は、ふるさとから連想する人やものごとなどを自由記述したことばを集め、そのなかから、ふるさとを主題とする既存の論説を参考に選定した表1の項目1～25（武田，2008）に対して、「1＝そう思う／2＝どちらかといえばそう思う／3＝どちらかといえばそうは思わない／4＝そうは思わない」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4＝そう思う／3＝どちらかといえばそう思う／…／1＝そうは思わない」と逆転させた。

ふるさとの印象は、「あなたは、ふるさとにどのような印象を持ちますか」に対して、「1＝良い印象を持つ／2＝どちらかといえば良い印象を持つ／3＝どちらかといえば悪い印象を持つ／4＝悪い印象を持つ」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4＝良い印象を持つ／3＝どちらかといえば良い印象を持つ／…／1＝悪い印象を持つ」と逆転させた。

ふるさとの有無は、「あなたには、ふるさとがありますか」に対して、「1＝ふるさとがある／2＝どちらかといえばふるさとがある／3＝どちらかといえばふるさとなない／4＝ふるさとなない」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4＝ふるさとがある／3＝どちらかといえばふるさとがある／…／1＝ふるさとなない」と逆転させた。

ふるさとでの定住願望は、「あなたは、ふるさとに住みたいですか」に対して、「1＝ふるさとから離れずずっと住みたい／2＝ふるさとからしばらく離れて暮らした後で、戻ってきてずっと住みたい／3＝ふるさとから離れて暮らしながら、ときどき戻ってきたい／4＝ふるさとから離れたところで、戻らずにずっと暮らしたい」のなかから1つ選んでもらい、分析するときには「4＝ふるさとから離れずずっと住みたい／3＝ふるさとからしばらく離れて暮らした後で、戻ってきてずっと住みたい／…／1＝ふるさとから離れたところで、戻らずにずっと暮らしたい」と逆転させた。

この他に、⑤性別、⑥年齢の回答を得た。

本稿では、ふるさと心象を測定する尺度を試作するために、ふるさとにまつわる情動や意識や態度や行動などの心理的特性を測る諸項目を探索的に因子分析し、ふるさと心象の因子構造について検討し、測定項目を選別する。その際、ふるさと心象やふるさとをめぐる感情には男女差がみられる（武田，2008，2011，2012，2013，2014）ので、男女別に分析する。

結果と考察

ふるさと心象の構成因子 男性について、表1の項目1～25を主因子法で因子分析しヴァリマックス回転した結果、固有値1を基準にその落差から6因子を抽出した（表2）。項目1、4、9、12、13、20、21、22、25が因子負荷量0.5未満だったので除外し、残りの16項目で再び因子分析を行った。なお、項目を選別する場合、因子負荷量0.4以上を基準にするという考え方が一般的である（中村，2007；柳井・繁樹・前川・市川，1990）が、本稿では、ふるさと心象を構成概念とする先行研究がないことから、まず何より安定した因子構造を確保するため、因子負荷量0.5以上を選別基準にした。

16項目を因子分析した結果、4因子が抽出されたが、項目2、7、17の因子負荷量が0.5未満だった。そこで、それらを除いた残り13項目を因子分析した。その結果、4因子が抽出されたが、項目8と24の因子負荷量が0.5を

満たしていなかったので除外し、残り11項目で因子分析を行った。その結果、4因子が抽出され、全ての因子負荷量が0.5以上だった。しかし、第IV因子は、項目10だけに影響することが示されたので除外することにした。

表1 ふるさと心象の男女差

	男性 (n = 136)		女性 (n = 324)	
	M	SD	M	SD
1. ふるさとは、なつかしいところである	3.39	0.83	3.48	0.78
2. ふるさとは、心が安らぐところである	3.45	0.75	3.62	0.59*
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	2.83	1.02	3.08	0.91*
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	3.28	0.99	3.44	0.86
5. ふるさとは、のんびりしたところである	3.10	0.98	3.39	0.77**
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	2.78	1.08	3.04	0.90*
7. ふるさとは、夢や希望に満ちているところである	1.98	0.83	2.10	0.88
8. ふるさとは、明るいところである	2.58	0.92	2.71	0.88
9. ふるさとは、遠く離れたところである	2.32	1.15	2.22	1.10
10. ふるさとは、住みやすいところである	2.97	1.03	3.05	0.92
11. ふるさとは、親が住んでいる	3.26	1.00	3.46	0.88*
12. ふるさとは、田畑がある	3.01	1.03	3.13	1.00
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	3.29	0.89	3.28	0.90
14. ふるさとは、墓がある	3.00	1.06	3.02	1.05
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	3.02	1.05	3.28	0.96*
16. ふるさとは、実家がある	3.32	0.97	3.48	0.83
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	2.29	1.02	2.44	1.05
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	2.68	1.00	2.80	0.94
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	2.78	1.09	3.02	1.04*
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	3.11	0.83	2.99	0.87
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	2.02	0.87	1.96	0.80
22. ふるさとは、漁港がある	1.90	1.05	2.11	1.05
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	2.54	0.97	2.60	0.93
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	2.58	0.99	2.66	0.96
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	3.02	0.91	3.12	0.87
26. ふるさとの印象	3.46	0.65	3.39	0.55
27. ふるさとの有無	3.14	1.00	3.35	0.87*
28. ふるさとでの定住願望	2.88	0.90	2.84	0.88
29. 年齢	22.55	4.75	26.33	6.37***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表2 男性のふるさと心象全項目の回転後の因子負荷量 (n = 136)

項 目	1	2	3	4	5	6	共通性
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.780	-0.092	0.156	0.159	0.078	0.021	0.673
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.631	-0.050	0.204	0.120	-0.021	-0.034	0.458
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	0.578	0.288	0.109	0.039	0.236	0.169	0.515
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.527	0.488	0.142	-0.067	-0.015	0.049	0.543
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	0.502	0.146	0.012	0.035	-0.113	0.193	0.325
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.491	-0.092	0.369	0.357	0.015	-0.264	0.584
12. ふるさとは、田畑がある	0.406	0.300	0.400	0.084	-0.015	-0.010	0.422
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	0.393	0.170	-0.071	0.264	-0.005	0.328	0.366
22. ふるさとは、漁港がある	0.297	0.056	0.138	0.032	-0.085	0.167	0.146
16. ふるさとは、実家がある	0.003	0.845	-0.032	-0.017	0.049	-0.037	0.719
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.113	0.671	0.039	0.207	-0.048	0.111	0.522
14. ふるさとは、墓がある	0.288	0.556	0.167	0.294	-0.227	0.178	0.589
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	0.391	0.515	0.335	0.042	-0.302	0.011	0.624
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	-0.086	0.453	-0.108	0.395	0.171	0.035	0.411
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	-0.061	0.416	0.214	0.194	0.287	-0.036	0.344
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.125	0.031	0.828	0.051	0.182	0.039	0.739
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.106	0.156	0.722	0.123	0.165	-0.005	0.599
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.226	-0.057	0.706	0.005	0.250	0.034	0.616
9. ふるさとは、遠く離れたところである	0.123	0.045	0.436	-0.084	-0.025	0.216	0.262
10. ふるさとは、住みやすいところである	0.082	0.227	0.061	0.540	0.157	0.131	0.395
8. ふるさとは、明るいところである	0.209	-0.004	0.086	0.502	0.139	0.244	0.382
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	0.227	0.379	-0.037	0.487	0.041	-0.100	0.446
2. ふるさとは、心が安らぐところである	-0.012	0.128	0.192	0.255	0.710	-0.044	0.624
1. ふるさとは、なつかしいところである	-0.006	-0.083	0.194	0.052	0.430	0.098	0.242
7. ふるさとは、夢や希望に満ちているところである	0.164	0.011	0.164	0.177	0.096	0.680	0.557
寄 与 率	12.004	11.398	10.514	5.927	4.838	3.731	

最終的に、男性のふるさと心象については、3因子構造とした(表3)。第I因子の寄与率23.238%、第II因子19.717%、第III因子15.529%、合計58.484%である。

次に、女性についても同様に、表1のふるさと心象25項目を主因子法で因子分析しヴァリマックス回転した。固有値1を目安にその減少傾向から7因子を抽出した(表4)。因子負荷量0.5未満の項目4、9、17、21、22、24、25を除いて、残り18項目で2回目の因子分析を行った。その結果、5因子が抽出され

たが、項目10、14、15の因子負荷量が0.5未満だったので、これらを除いた。残り15項目で因子分析した結果、4因子が抽出されたが、項目7、8、9の因子負荷量が0.5を満たしていなかったため除外した。残った12項目の因子分析の結果から、全ての因子負荷量が0.5以上の4因子が得られた。

因子の信頼性 男性の3因子の信頼性について、 α 係数をみると、第I因子=0.812、第II因子=0.834、第III因子=0.745と高い値だった。

表3 男性のふるさと心象選別項目の回転後の因子負荷量 (n = 136)

項目	1	2	3	共通性
16. ふるさとは、実家がある	0.778	-0.035	-0.160	0.633
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.679	0.027	0.004	0.461
14. ふるさとは、墓がある	0.671	0.093	0.233	0.513
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	0.625	0.249	0.243	0.512
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.594	0.139	0.359	0.501
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.095	0.835	0.104	0.717
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	-0.026	0.784	0.199	0.654
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.186	0.715	0.124	0.561
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.076	0.134	0.940	0.908
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.118	0.199	0.580	0.389
寄与率	23.238	19.717	15.529	

表4 女性のふるさと心象全項目の回転後の因子負荷量 (n = 324)

項目	1	2	3	4	5	6	7	共通性
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.768	0.243	-0.085	0.111	0.198	0.110	0.068	0.724
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.757	0.211	-0.032	0.016	0.037	0.168	0.098	0.659
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.632	0.196	0.033	0.160	0.085	0.252	-0.012	0.535
12. ふるさとは、田畑がある	0.602	0.122	0.105	0.103	0.266	-0.020	0.124	0.486
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.208	0.669	0.068	0.242	0.135	0.075	0.080	0.584
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.293	0.636	-0.003	0.292	0.167	0.248	0.029	0.667
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.207	0.627	-0.039	0.192	0.205	0.100	0.022	0.526
24. ふるさとは、保守的な人たちが住んでいる	0.211	0.415	0.138	-0.064	0.124	-0.140	0.218	0.323
11. ふるさとは、親が住んでいる	-0.038	-0.009	0.777	0.072	0.123	0.027	0.063	0.630
16. ふるさとは、実家がある	-0.025	0.068	0.766	0.032	0.238	0.027	-0.014	0.651
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	-0.035	0.148	0.590	0.254	0.215	0.025	-0.080	0.489
4. ふるさとは、子どもの頃に住んでいたところである	0.074	-0.079	0.412	0.116	-0.040	0.263	0.056	0.269
8. ふるさとは、明るいところである	0.107	0.145	0.105	0.738	0.117	0.113	0.074	0.621
7. ふるさとは、夢や希望に満ちているところである	0.149	0.157	0.069	0.636	0.042	0.175	0.373	0.627
10. ふるさとは、住みやすいところである	0.073	0.134	0.272	0.502	0.047	0.151	-0.127	0.391
25. ふるさとは、親しい人たちが住んでいる	0.015	0.283	0.361	0.403	0.048	0.020	-0.029	0.376
15. ふるさとは、お爺さんやお婆さんが住んでいる	0.195	0.115	0.107	0.105	0.649	0.035	0.087	0.504
14. ふるさとは、墓がある	0.097	0.109	0.249	0.084	0.629	-0.003	0.003	0.486
19. ふるさとは、先祖代々の土地がある	0.157	0.331	0.160	-0.043	0.525	0.045	0.164	0.466
17. ふるさとは、大家族が住んでいる	0.210	0.298	0.059	0.071	0.386	0.239	0.266	0.418
22. ふるさとは、漁港がある	0.146	0.287	0.100	0.182	0.297	-0.088	0.255	0.307
2. ふるさとは、心が安らぐところである	0.149	0.139	0.102	0.182	0.089	0.691	-0.081	0.577
1. ふるさとは、なつかしいところである	0.187	0.027	0.090	0.097	-0.012	0.635	0.175	0.487
21. ふるさとは、裕福な人たちが住んでいる	0.036	0.365	0.053	0.153	0.191	0.070	0.480	0.433
9. ふるさとは、遠く離れたところである	0.328	0.009	-0.114	-0.018	0.119	0.091	0.377	0.286
寄与率	9.973	8.839	8.485	7.224	7.001	5.208	3.362	

女性についても同様に α 係数をみると、第I因子=0.828、第II因子=0.803、第III因子=0.783、第IV因子=0.644だった。他に比べ第IV因子の値が低かったので、第IV因子を構成する項目1と2を除いて、再び因子分析を行った。その結果、3因子が抽出された(表5)。第I因子の寄与率22.652%、第II因子17.759%、第III因子17.419%、合計57.830%である。

次に、男性の3因子それぞれについて、総得点の上位群($M+SD$ より高得点)と下位群($M-SD$ より低得点)とのG-P分析を行った結果、何れも上位群の平均値は下位群より有意に高かったことから、各因子の弁別力が確認された。女性の3因子も同様にG-P分析を行って、個別因子の弁別力を確認した。

因子の解釈 男性の各因子を解釈すると、第I因子は、「16. ふるさとは、実家がある」「11. ふるさとは、親が住んでいる」「14. ふるさとは、墓がある」などの負荷が高かったので「家族」の因子とした。第II因子は、「6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである」「3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである」などの負荷が高かったので「美しい自然環境」の因子とした。第III因子は、「18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住

んでいる」の負荷が高かったので「共同体」の因子とした。

女性の第I因子は、「6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである」「3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである」などの負荷が高かったので「美しい自然環境」の因子とした。第II因子は、「20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる」「23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる」などの負荷が高かったので「共同体」の因子とした。第III因子は、「16. ふるさとは、実家がある」「11. ふるさとは、親が住んでいる」の負荷が高かったので「家族」の因子とした。

先行調査の検討結果から、ふるさと心象の男女差を想定し、男女別に因子構造を分析したところ、寄与率の差異はみられるが3因子の特性は類似していることがわかった。他の標本からも同じ結果が得られるかは、改めて検討したい。

基準関連妥当性 基準関連妥当性は、ふるさと心象と関係する特性との相関が高いことで認められる。ふるさと心象を測定する他の心理尺度はないので、ここでは、ふるさとの印象、ふるさとの有無、ふるさとでの定住願望を基準変量として、各因子との相関係数をみてみよう。

表5 女性のふるさと心象選別項目の回転後の因子負荷量 ($n = 324$)

項目	1	2	3	共通性
6. ふるさとは、山や川や海が美しいところである	0.793	0.317	-0.066	0.734
3. ふるさとは、水や空気がきれいなところである	0.768	0.208	-0.059	0.637
5. ふるさとは、のんびりしたところである	0.663	0.243	0.034	0.499
12. ふるさとは、田畑がある	0.619	0.157	0.139	0.427
20. ふるさとは、人情味のある人たちが住んでいる	0.334	0.752	0.070	0.681
23. ふるさとは、義理堅い人たちが住んでいる	0.223	0.712	0.128	0.573
18. ふるさとは、面倒見のいい人たちが住んでいる	0.248	0.662	0.043	0.501
16. ふるさとは、実家がある	0.025	0.044	0.818	0.672
11. ふるさとは、親が住んでいる	0.011	-0.035	0.811	0.659
13. ふるさとは、旧友が住んでいる	0.018	0.187	0.603	0.398
寄与率	22.652	17.759	17.419	

男性については、家族の因子とふるさとの有無、ふるさとでの定住願望との相関性がみられ、美しい自然環境の因子もふるさとの印象との相関関係を示した(表6)。しかし、共同体の因子は3つの基準変量と関係していなかった。3つの因子の合計得点を男性のふるさと心象とした結果、ふるさとの印象、ふるさとでの定住願望と有意な相関関係がみられた。また、3因子と男性のふるさと心象との相関性も確認できた。さらに、各因子の項目間の相関係数は、第I因子0.365～0.569、第II因子0.579～0.669、第III因子0.594だったことから、内的整合性が認められた。

表7は女性の結果である。家族の因子は、3つの基準変量全てと相関関係がみられた。共同体の因子は、ふるさとの印象、ふるさとで

の定住願望との相関性を示し、美しい自然環境の因子とふるさとの印象との相関関係もみられた。3因子の合計得点である女性のふるさと心象と、3つの基準変量および3つの因子との相関性が確認できた。また、美しい自然環境の因子と家族の因子との間に有意な相関関係はみられなかった。さらに、各因子の項目間の相関係数は、第I因子0.474～0.696、第II因子0.533～0.616、第III因子0.472～0.665だったので、内的整合性が認められた。

本稿では、ふるさと心象の測定について検討し、3因子で構成される心理尺度を男女別に試作した。この予備尺度は、因子得点がまだ安定していないので、今後は他の標本から得た資料を使って信頼性と妥当性を高めるように改良していきたい。

表6 男性のふるさと心象の相関係数 (n = 136)

	1	2	3	4	5	6	7
1. ふるさとの印象	—						
2. ふるさとの有無	0.309***	—					
3. ふるさとでの定住願望	0.301***	0.359***	—				
4. 「家族」の因子	0.073	0.319***	0.246**	—			
5. 「美しい自然環境」の因子	0.230**	-0.071	0.155	0.232**	—		
6. 「共同体」の因子	0.084	-0.071	0.074	0.279***	0.320***	—	
7. 男性のふるさと心象	0.170*	0.162	0.247**	0.823***	0.678***	0.608***	—

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表7 女性のふるさと心象の相関係数 (n = 324)

	1	2	3	4	5	6	7
1. ふるさとの印象	—						
2. ふるさとの有無	0.208***	—					
3. ふるさとでの定住願望	0.276***	0.296***	—				
4. 「美しい自然環境」の因子	0.256***	-0.010	0.078	—			
5. 「共同体」の因子	0.371***	0.100	0.146**	0.510***	—		
6. 「家族」の因子	0.162**	0.357***	0.259***	0.057	0.157**	—	
7. 女性のふるさと心象	0.371***	0.186***	0.215***	0.800***	0.786***	0.515***	—

** $p < .01$ *** $p < .001$

引用文献

- 江口圭一・戸梶亜紀彦 2009 「労働価値観測定尺度（短縮版）の開発」『実験社会心理学研究』**49** (1), 84-92.
- 石盛真徳・岡本卓也・加藤潤三 2013 「コミュニティ意識尺度（短縮版）の開発」『実験社会心理学研究』**53** (1), 22-29.
- 中村知靖 2007 「心理尺度作成における因子分析の利用法」『教育心理学年報』**46**, 42-45.
- 桜井茂男 1993 「児童用セルフ・モニタリング尺度の作成」『実験社会心理学研究』**33** (1), 78-84.
- 武田圭太 2008 『ふるさとの誘因』学文社
- 武田圭太 2011 「女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (1)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』**56**, 39-49.
- 武田圭太 2012 「女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (2)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』**57**, 23-31.
- 武田圭太 2013 「女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (3)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』**58**, 23-33.
- 武田圭太 2014 「女性にとっての“ふるさと”と定住願望 (4)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』**59**, 55-62.
- 柳井晴夫・繁榎算男・前川眞一・市川雅教 1990 『因子分析』朝倉書店